

西濃農林事務所の普及活動状況

平成29年9月30日現在

今月の重点活動

■多様な担い手育成 西濃地域農業教育懇談会に参加

8月23日に大垣養老高等学校で開催された教育懇談会に、管内の農業担い手リーダー（指導農業士・青年農業士・女性農業経営アドバイザー）が参加し、高校職員等との情報交換を行った。

施設見学の後の懇談会では、話題提供として学生によるプロジェクト発表等について報告がなされた。農業普及課からは、多様な担い手育成の取組みについて報告した。また、品目別の分科会では活発な意見交換がなされた。



【西濃地域農業教育懇談会】

■「西濃就農応援隊」応援会議が開催される

これまで西濃地域の就農応援隊は「海津就農応援隊」のみであったが、西濃地域全域をカバーする「西濃就農応援隊」が8月28日に結団され、応援会議が開催された。西濃就農応援隊は、管内市町の自治会、商工会、観光協会等、65団体で構成され、地域全体で就農希望者や新規就農者を応援する体制が整った。当日は、新規就農者からのメッセージの他、6次産業化を主題とした基調講演もあり、県就農支援センターの現地視察も行われた。

農業普及課は、関係機関との情報共有を進め就農希望者に対する就農相談を継続して実施する他、新規就農者の営農定着を推進する。



【就農支援センターでの現地視察の様子】

多様な担い手づくり

■農業次世代人材投資事業 就農前研修の現地確認を実施～大垣市～

農業次世代人材投資事業準備型受給者の現況を確認するため、8月23日に岐阜県アグリチャレンジ支援センターが大垣市のわさび栽培の経営体で実施されている就農前研修の現地を訪れた。センターの進行で研修生、受入れ農家及び農業普及課の間で情報共有、協議がなされた。研修は8月末で終了し、農業普及課は関係機関と連携して就農に向け支援を行っていく。

■ブロッコリー 帰農塾で生産者の増加を支援～安八町～

9月1日、JAにしみの名森支店においてブロッコリーを主題とした第1回帰農塾が開催された。出席者は6名。前半はJA担当者から安八部会の現状と出荷までの流れについて、農業普及課からブロッコリーの栽培概要とポイントについて説明し、後半は定植機を使った実演を行った。ブロッコリーは営農組織を中心に栽培されているが、安八部会では個人の栽培者も多く、今後の仲間づくりに期待を寄せている。第2回（10月6日）は「ほうれんそう研修会」が開催される計画となっている。



【定植機の説明を受ける塾生】

■西南濃地区農業婦人クラブ 視察研修会

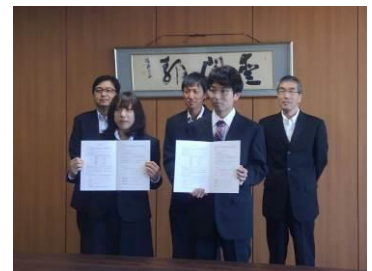
9月5日に西南濃地区農業婦人クラブが視察研修会を実施し、41名が参加した。郡上市和良にある「ちんちろ屋」にて、代表者より地域の農産物や特産品販売における経営について説明を受けた。「地域を活性化させたい、地域の人が元気で楽しく過ごすことのできる店を作りたいという思いでここまで来た。信念を持って取組めば、いくつになっても何でもチャレンジできますよ。」と力強いコメントをいただいた。会員らは自分たちの活動を見直し、より活発な活動につなげる機会となった。農業普及課は、研修会の企画運営を支援した。



【代表者からの説明】

■男女共同参画 家族経営協定を締結～海津市～

8月31日、海津市役所において岐阜県就農支援センター卒業生の田家氏夫妻の家族経営協定調印式が行われた。海津市役所産業経済部、西美濃農業協同組合海津営農センター、岐阜県就農支援センター、西濃農林事務所農業普及課が立ち会い、今後の経営発展へ向けて夫妻での新たなスタートを切った。農業普及課は今後も引き続き、栽培・経営についての助言を行う予定である。



【田家夫妻と立会人記念撮影】

売れるブランドづくり

■トマト 県就農支援センター第3期生の定植作業始まる

9月1日に第3期生の定植作業が始まった。第3期生は、2名が海津市（海津トマト部会員）で就農し、農業普及課としても重点的に巡回支援を行っている。作業の時間割（明確化）、生育状況の把握とそれに伴う養液管理（EC、給液回数、排液率）、給液のチェックと洗浄を各自が意識して実行するように助言を行っている。定植から2週間程度経過したが今のところ生育は順調である。今後も適切な給液管理等について就農支援センターと連携し助言を行っていく。



【培土詰め作業の様子】

■ナバナ 播種作業の省力化を支援

海津ナバナ部会では8月末から苗の播種、9月中旬から直播が行われている。地域ではセルトレイ、地床による育苗が主体であるが、省力化のためシーダーテープを用いた直播栽培が一部（約1割）で導入されている。直播栽培は残暑、降雨の影響を受けやすく、根こぶ病も発生しやすいため計画的なほ場づくり、高温対策、排水対策、適期播種が重要となる。

農業普及課では作業分散、軽労化モデルとして直播栽培の面積割合を50%とした栽培を提案している。3カ所で実証展示ほを設置し、シーダーテープ播種機の効率的な活用や発芽率の向上、その後の栽培管理について支援を行った。今後も、協業化による労力補完の取組み提案とあわせて取組んでいく。

■GAP 下宮版GAP内部監査結果の説明会を開催～神戸町下宮青果部会協議会～

8月29日に下宮版GAPの内部監査結果についての会員説明会を開催した。7月25日に実施した内部監査の結果を農業普及課でとりまとめて説明した。「できなかった」と指摘された項目のある生産者は改善計画を作成して提出してもらうこととした。